

運営委員会・研究部会合同会議を開催

外国人労働者は企業の「戦力」

一般社団法人静岡県中部未来懇話会の「運営委員会・研究部会合同会議」が昨年12月20日、静岡市駿河区のホテルセンチュリー静岡で開かれた。運営委員7人、研究委員5人が出席し、2019年度の年間調査研究テーマについて協議した。研究部会でまとめた素案「広がりをもせる外国人雇用を考える―外国人労働者を『戦力』として位置づける」に、同日の合同会議の意見を反映させて成案を作り、1月23日に開く理事・運営委員・研究委員全体会に提出する。

テーマ素案は、日本における人手不足は深刻な状況にあり、それを補うかのようには外国人労働者が増加。1993年には「技能実習」制度が導入され、アジア各

来年度研究
テーマ協議

戦略的な雇用考える



来年度の研究テーマについて意見交換した運営委員会・研究部会合同会議。静岡市駿河区のホテルセンチュリー静岡

国の実習生が日本の高度な技術を学び、自国の経済発展に役立てるという理念だったが、その理念は大き

く変容した。そのため、政府は外国人材の受け入れ拡大を目的に出入国管理法を改正し、外国人に単純労働の就業に門戸を開いた。

この法改正により、首都圏に近い静岡県中部地区でも多くの外国人が就労する可能性が予想される。そうした外国人を企業の「戦力」として位置づけることは必要不可欠であり、その可能性や戦略などについてシンポジウムを通して探るとしている。

シンポジウムのテーマは▽第一回（春季・6月）は「企業経営から見た外国人就労者の位置づけと今後の可能性」、▽第二回（秋季・10月）は「外国人の就労意識と地域の受け入れ体制」を提示した。

テーマ素案に対して、出席者からは「難しいテーマだが人手不足が深刻な中、取り上げるべき問題だ」「優

秀な外国人材が出始めてい

る。ぜひこのテーマを深掘りしてほしい」「外国人労働者に選んでもらえる地域になることが大切」などと肯定的な意見が多く出され、来年度の研究テーマ案として全員の賛同を得た。

研究部会長の日詰一幸・静岡大人文社会科学部学部長は「これまで外国人労働者を単純労働としか見ていなかった。もっと広い視野で外国人労働を見ていく必要がある。そのためにはシンポジウムでは戦略的な外国人雇用の在り方を打ち出していきたい」と語った。

最後に事務局が静岡県中部未来懇話会の政策提言に基づいて設立され、7年目の活動に入っている「中部地域経営会議」のこれまでの活動状況や中部未来懇話会の今後のスケジュールなどを報告した。